

## 国会ごっこ遊び???

総理が今月14日に法案成立を条件に解散宣言して3日目で解散し、来月16日に衆議院総選挙。

総理が出した条件の法案が国会に緊急上程され、15日に衆議院で通過し、16日に参議院で通過。

野党は「国民の信頼を得るために早い解散を！」との言い分だったが、法案を通そうと思えば僅か3日で委員会や両院で成立させることが出来るなら、国民に大事な法案をその都度スピーディーに成立させることは可能なはずで、政治を進めるスピーディーさこそが国民の信頼を得るというもの。

こんな今の政争状態を知ると法案は単に政争の具に使われるだけで、国会議員は「国会ごっこ遊びをしているだけなのか！」と云いたくなる。

来月の総選挙では、14もの政党が乱立し政党間の主張の異なりがよく分からず、どの政党に投票かの戸惑が国民の間に拡がっていることがマスコミ等でしきりと取り上げられている。

これだけ国民一人一人の価値観が多様な社会だけに、多様な政党の乱立はありかなと思う。

ふと思うに、国会議員は主権者である国民一人一人から国政を信託されて選ばれたのであるから、議員一人一人が法案採決の折には自らの判断と責任で採決に望めばいいことなのに、それを党議や党則で縛ろうとするから、「国会ごっこ遊び(?)」になる。

確かに採決は多数決なので主張を同じくする議員の数がものをいうことになるが、選挙前に政党間の連携、統合云々と云わずに、具体的各法案毎に「この指たかれ！」式に同調する政党や議員を募ればいいこと！

3年前の政権交代時、当HP記事「今回の政権交代に『ノーの保障』を連想する（HP「雑学 BN」の随想等関係（VII）、2009.09.01.: 参照）」で、「二大政党制が早々に根付くかどうか…」、また、「これからの日本はこうした政権交代の繰り返しの中で、更に成熟した社会への道を行って行くのだろう」と記したが、色んな政党の乱立もそのための一過程かもしれない、それだけに国民一人一人が自らの判断と責任で議員を選ぶ政治参加意識成熟への試金石が当分続くように思う。

だが、人は選択肢が多いと選択することが鈍るそう。

こう政党（候補者）が多くなると、来月の総選挙では棄権する人が増えるのではないかと案じる。

やはり、選挙は棄権すべきでない（HP「雑学 BN」の随想等関係（II）、2003.11.10.「選挙に行くって、こういうこと！」: 参照）。